

平成 30 年 2 月 2 日

赤門鍼灸柔整専門学校
校長 坂本 正憲 殿

学校関係者評価委員会
委員長 押切 悦男

平成 29 年度 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会は「平成 28 年度学校自己評価報告書」に基づき学校関係者評価を行いました。下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 押切 悦男（学識経験者 税理士）
- ② 加藤 武司（高等学校関係 前明成高等学校校長）
- ③ 宗形 明子（卒業者関係 昭和 59 年鍼灸指圧科卒業
ホテル飛天治療院）
- ④ 種村 正昭（保護者関係 中山鍼灸接骨院）
- ⑤ 池田 則夫（地域関係 会社顧問）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 29 年 12 月 19 日(赤門鍼灸柔整専門学校 会議室)
- 第 2 回委員会 平成 30 年 2 月 1 日(赤門鍼灸柔整専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告書

別紙のとおり

以 上

1 教育理念、教育目標等について

・建学以来 60 有余年にわたり構築してきた建学の理念に基づいた教育目標、育成すべき医療人としての人間像は明確であり、東洋医学・伝統医学の普及発展のためにこれまでに多くの有為な医療人を社会に送り出してきたことを評価する。今後も継続して質の高い教育を提供し、医療人としての倫理観・誇りを併せて植え付けられるよう、周知徹底を図られたい。

・学生確保のための「AO 入試」や「同窓生の推薦入試」などの新たな入試制度の改革に取り組んできたことは評価できる。更なる改革を推進するとともに、社会や業界のニーズ、学生の実態等を踏まえられ学校の「将来構想」に生かすよう期待する。

・志願者の減少は学校運営並びに学校存続にとっては最大の課題であるので、教職員全体が危機意識を共有して一丸となって解決にあたられたい。

・入学者を選ぶ時代から入学者に選ばれる時代になっているので、学生への適切な調査アンケートを実施することで、より望まれる学校としての対応を望みたい。

2 各評価項目について

(1) 重点目標について

・教育の充実に大きく関与する教員の資質向上に、今年度も引き続き取り組んでほしい。特に自己点検、自己評価のほか、学生からの授業評価も必要と思います。

・学校を取り巻く社会環境の変化に対して、学校の将来構想をどう確立するかが今後の大きな課題である。

(2) 学校運営

・学校運営全般にわたって適切かつ円滑に運営されており、情報の公開等もシステム化され効率的で努力のあとがうかがえる。情報化社会の中で重要な位置づけをされ、その人材の確保や人材の育成に万全を期すよう努力されたい。

・学校運営上、非常勤講師が多く、それぞれに専門性が高く多様化しており、明確な方向性、周到な計画性、実践後の課題の集約など情報の共有化、情報のシステム化を更に検討していくことが必要である。

(3) 教育活動

- ・教育課程の編成と実施、教育評価、指導方法の工夫・開発等適切に行われている。教育課程編成委員会で年間2回検討していることは評価したい。
- ・授業科目の概要である「シラバス」は学生にとっては意欲づけ、学習のよりどころとして大変重要であり、さらに充実した内容となることを期待したい。
- ・教員として勤務しながら関係する大学院の修士課程、博士課程の在籍者や修了者がいることは人材育成を図っていることとして高く評価したい。
- ・国家資格を取得するための指導体制が確立しており、外部関係者の評価の導入、附属の臨床治療所での実習や治療院を開業している講師の臨床授業など、実践的で専門的な職業教育（キャリア教育）が実施されている。

(4) 学修成果

- ・国家試験の資格取得率並びに就職率ともに高く、指導の成果が高く表れており、これを継続されたい。
- ・少子化、養成学校の急増にともなう学生の質の低下（学力不振）、伝統医学にかける情熱的エネルギーの希薄化などの社会現象への対応について、学生や教職員の実態調査などを踏まえ、共通の課題として学校及び関係団体で取り上げることが望みたい。

(5) 学生支援

- ・評価項目の「経済支援」、「健康支援」、「生活環境への支援」についてはある程度限界があり、どの程度の支援があれば評価4になるのかも検討する必要があるのではないかと感じられる。評価基準がはっきりしないため評価3としているように感じられる。
- ・「経済的支援」には学校としても限界があり、将来の本人の負担も考慮し便宜を図ることが重要なので充分役割を果たしている。
- ・研修会、学術大会、ボランティア活動等への参加のサポートは高く評価できる。
- ・今まで以上に、学生が自由に気軽に各種相談（進路、就職、悩み等）をできる環境の整備を望みたい。

(6) 教育環境

- ・おおむね恵まれた教育環境であり大きな問題はないが、小中高校で重要視される防災教育について、今後校務分掌の中に位置づけてはどうか。
- ・設置基準に定められた施設や臨床実習施設など十分に教育環境が整備されている。また、防災体制も万全かと思うが、ハザードマップの作製も検討されたい。
- ・法令で定めている教室、実習室、柔道場、図書室（現在は約4千冊）はもとより、バレー・バスケットコート、附属臨床治療院などが充実しており評価できる。

(7) 学生の受入れ募集

- ・オープンキャンパスも昨年より2回増加し、5回実施。AO入試、指定校推薦入試、同窓会推薦入試など積極的に導入され募集業務も充実している。
- ・学納金については、他校と比較しても廉価で大きな魅力である。
- ・近年では、情報をインターネット上から得ることが多くなっており、学校のHPやSNSの強化が見られることは時代に即していると考えられる。
- ・宮城県内のみならず隣県の高校生にとって仙台の学校は大きな選択肢の一つであるため、積極的なPRなどさらなる募集活動の展開を望みたい。

(8) 財 務

- ・学校の収入は大部分が学納金収入であり、学生の募集状況が大きな鍵である。「魅力ある学校づくり」に全教職員一丸となって邁進されたい。
- ・少子化や経済状況の悪化等も視野に入れて、より積極的な募集活動の展開を図り、定員の充足率を高める努力を期待する。
- ・医師、大学教員が担当する授業科目は、教育専攻科を卒業した教員も行えるが、人件費の増大はどの事業体にとっても最も頭が痛いことであり、教育内容の質を維持し資質の向上のためにもバランスをとって継続されることを望みたい。

(9) 法令等の遵守

- ・最近、考えられないような若者の事件、事故が報道されており、学内における事故・事件や教職員の不祥事等は学校の信頼を著しく失う恐れがあるので、学生への指導や管理の徹底、教職員の法令の遵守等に万全を期していただきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・赤十字奉仕団の献血活動等や学園祭の「1日治療院」などは、学校及び先輩からの素晴らしい伝統で、ボランティア精神の育成として役立っており、これからも地域と連携しつつ学生の社会貢献意識の醸成の為に継続していただきたい。

(11) 国際交流

- ・現在の国際情勢や関係法令からみて、学校の取組み及び評価は妥当である。